



1周年を迎えたコミュニティ

05年5月8日、竹橋プリンティングセンターがオープンして早1年。その間の動きは交流会あるいは紙面上でもお伝えしてきたが改めてその1年の軌跡を振り返りつつ、スタートは、オープン翌日から始まりました。各社によるブースへの参加、同時に地下3F入口にはマルチパネルと写真コンフォメーション案内板が設置される。

同年7月までは43社が集結し、7月2日に毎日ホールにて記念すべき第1回「コミュニティスクエア交流会」が164名の参加のもと開催された。委員会メンバーの選出は兼手により行われ、委員長に(株)サンエムカラーの松井勝美氏、副委員長にグラフィックジャパン(株)津本好英氏(株)やまとカーボン社の津本正明氏が就任。また、第2回交流会以後からは、開催日に合わせて毎月委員会が開かれ、現在も運営に関する諸問題について話し合いが行われている。

8月、スクエア活性化と現場の問題点解決を目的として、委員会と別に実務者のみで話し合いを行う「実務者交流会」が発足。さらに防犯上の観点から監視カメラの設置、生体認証による入室管理システムを導入。また、交流会で希望の上からついた、各社のパンフ・チラシ・製品見本を置くコーナーが、同月スクエア受付前に設置された。

2年目スタートを機に、期待の営業ツール「TPCCS」の営業ツール完成

昨年12月から制作に入っていた「営業ツール」が完成。これは「コミュニティスクエア」参加企業の営業品目をまとめた冊子で、4月の交流会にて配布された。

冊子は、約130ページに折り込

24社が登壇、プロジェクトやパネルでの紹介パソコン上のデモンストラーション、制作物のアビリティカタログやチラシの配布等、各社各様の工夫がなされ盛況裏に終った。

12月5日、初年度の締めとして、忘年会も兼ね、京都を拠点とする3社の会社見学会、リクエスタの多かった企業のアンコールプレゼン。そして、忘年会が行われた。

06年1月12日に、毎日ホールと如水会館にて新年会を開催。新規加入した4社のプレゼンとJDFワークフローの紹介が行われた。2月から、交流会において定例で講演会を開催することになり、第1回は大阪シーリング印刷(株)取締役奥田勝巳氏が、Eコマースと印刷業界、3月の第2回講演会は、小泉内閣の獲得動向」と題して毎日新聞社論説委員長の菊池哲朗氏が登壇。第3回は下橋博哉の通り、好評のうちに続いている。また、2月の実務者交流会からは実務者たちの意見が採り入れられ、会合の形式をお酒を飲みながらに変わった。

4月末日現在の参加企業は57社にのぼっている。

「和」をもって、共存共栄を目指す情報紙。
Takebashi Community Press

竹橋コミュニティプレス

May 2006 10号

平成18年5月8日発行

発行人 / 犬養 俊輔
発行 / 株式会社 帆風
編集長 / 小原 紹一郎
編集 / 株式会社 帆風 小原デザインセンター
スタッフ / 石原 有理・横田 みえこ・井口 健太郎・椎橋 信雄
画像補正 / 山田豊
CTP印刷 / 竹橋プリンティングセンター

竹橋コミュニティスクエアのメンバーご紹介

(ナンバー、順序はお申込み順・敬称略 / 4月20日現在)

- 1 株式会社日相印刷
- 2 三協タックラベル株式会社
- 3 旭紙工業株式会社
- 4 双葉ネットワーク株式会社
- 5 マコト印刷株式会社
- 6 グラフィックジャパン株式会社
- 7 株式会社あるす
- 8 株式会社セイコー紙業
- 9 星野製本株式会社
- 10 株式会社東京パック
- 11 船島印刷株式会社
- 12 株式会社共栄堂
- 13 株式会社サンエムカラー
- 14 株式会社ティンビー
- 15 株式会社梅垣ラベルサービス
- 16 株式会社ワイズプリンティング
- 17 白山印刷株式会社
- 18 株式会社日達印刷所
- 19 株式会社東和印刷紙器
- 20 北斗印刷株式会社
- 21 ハート株式会社
- 22 株式会社プロセスレボ
- 23 株式会社光陽社
- 24 今野印刷株式会社
- 25 小川印刷株式会社
- 26 富士印刷株式会社
- 27 大阪シーリング印刷株式会社
- 28 石本紙工業株式会社
- 29 高山印刷株式会社
- 30 株式会社大和
- 31 二葉印刷株式会社
- 32 株式会社やまとカーボン社
- 33 株式会社図書印刷同朋舎
- 34 福博印刷株式会社
- 35 株式会社ワイルコーポレーション
- 36 株式会社三幸堂
- 37 野崎工業株式会社 / 東福華印刷株式会社
- 38 株式会社ユーメディア
- 39 株式会社ラバーソウル / 糸伯泰隆数馬設計有限公司
- 40 サン美術印刷株式会社
- 41 中部印刷株式会社
- 42 株式会社大和
- 43 宮下印刷株式会社
- 44 株式会社サクラ印刷 / 株式会社ジエイ・エス / 株式会社ジャパンプランニングセンター / 小鹿印刷株式会社
- 45 株式会社渋谷文楽園
- 46 株式会社 林 敬文堂
- 47 株式会社古田デザイン事務所
- 48 新日本カレンダー株式会社 / 福岡信日印刷株式会社
- 49 株式会社昭和堂
- 50 大陽出版株式会社
- 51 株式会社イマイチ
- 52 佐川印刷株式会社
- 53 彩光印刷株式会社
- 54 株式会社イーアンドイー
- 55 株式会社ジャパンアート
- 56 滝川印刷株式会社

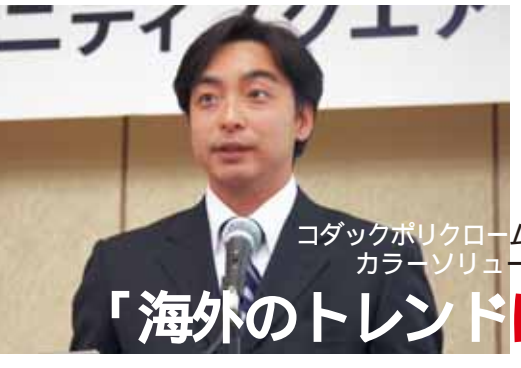
2つのテーマで開催した講演会



まずグラフィックジャパン(株)の湯本氏から、講演を行う中西氏と日本ロジテム(株)について、付加価値運送業をベースに、ただ荷物を運ぶだけではなくユニークな手法が注目される物流会社。また、中

西氏本人は、商工中金全国ユース会の代表幹事も務めるほどの、人望の厚い人物との紹介があった。

続いて中西氏が登壇。物流を主体とする同社グループの設立からの経緯、業務など会社概要を紹介。さらに、お客様ニーズに合わせて変換を遂げた、物流について1990年代初期から時系列に従っての仕組みの解説を、工場の組立倉庫の保有といった流通のはりとなる仕組みづくりから、鉄道コンテナの扱い



「海外のトレンドに見る校正方法の変化」

コダックポリクロームグラフィックス株式会社 マーケティング本部
カラーソリューションズプロダクトマネージャー 郡正也氏

郡正也氏が登壇。今回は校正という部分にフォーカスし、ヨーロッパ・アメリカも含めた海外のトレンドCTPもそうでしたが、欧米で流行しているのは、必ず数年後、日本にも流れてくる。皆さまにも直接関係のある内容ですのでぜひ参考にしていただければ...とのコメントで始まった。

まず、北米でのハードフルシステム設置台数では現状アナログとDCCPは合わせて10%、インクジェットが校正の主流となっており、最近では日本での伸びも高い。

約400の印刷デザイン会社に取ったアンケートによると、ハードフルシステム購入を考慮する企業は相対的に少なく、購入予定の目的は大判インクジェットでの校正の他、ポスターやサインディスプレイ用の出力、購入しない企業の8割は、従来通りのいわゆる校正紙出力であるが、残りの2割がモニターへの移行という。デジタルフルフルがまだ主体だが、今後は、カラーマネジメン

4月5日(水)18時から開催された竹橋コミュニティスクエア交流会も、第10回の節目を迎えた。会場となった竹橋・如水会館3F松風の間には、コミュニティ会員43社73名(株)帆風(株)E&E(株)ジャパンアートから38名、報道関係者5名、計116名が参加。今回の第1部は、2つの講演会が行われた。以下、それぞれの講演内容の概略は次の通り。

まず、各企業の情報がわかり易くまとめている「コミュニティスクエア」の概要、入居企業で取り扱う全商品一覧や、2種類の事業項目からどんな業務を得意とするかをインテックスで検索できる「仕事で検索ページ」、本社所在地が一覧でわかる「地域で検索ページ」、各企業の本社や施設、商品写真など、企業概要の紹介ページなどが構成されている。

冊子は、入居企業の営業担当者へ配布される他、定価1000円(税別)5000円はモニター算金として書店で一般販売も予定。

「物流の過去・現在・未来」

台湾・香港・タイ・ベトナム・上海

など国外関連企業8社で、日本との関係性が強いアジアを中心として展開する経緯を語った。特にベトナムについては、1994年の進出から軌道に乗るまでのハードウェアを語り、物流だけでなく、海外で事業展開するには障壁となる文化の違いにも触れ、ベトナム社会主義で育った現地採用の従業員、自由競争社会である日本企業とのやり方やマナーを浸透させるために5年の歳月を費やしたという苦労話も、日本企業が相次いで進出を遂げる中、アジア市場における事業拡大の難しさが垣間見えた。

また、国内では規制緩和によって事業者が増加し、小規模化したが近年新聞紙面を賑わしているM&Aというキーワードも確実に業界に浸透し、大手企業による買収や共同出資の新会社設立など、新しい動きが活発に見られるようになってきたと分析する。

トラックの環境規制については、石原都知事の提言したNOX・PM法に基づく投資を行った経緯や、動態管

「海外のトレンドに見る校正方法の変化」

郡正也氏が登壇。今回は校正という部分にフォーカスし、ヨーロッパ・アメリカも含めた海外のトレンドCTPもそうでしたが、欧米で流行しているのは、必ず数年後、日本にも流れてくる。皆さまにも直接関係のある内容ですのでぜひ参考にしていただければ...とのコメントで始まった。

まず、北米でのハードフルシステム設置台数では現状アナログとDCCPは合わせて10%、インクジェットが校正の主流となっており、最近では日本での伸びも高い。

約400の印刷デザイン会社に取ったアンケートによると、ハードフルシステム購入を考慮する企業は相対的に少なく、購入予定の目的は大判インクジェットでの校正の他、ポスターやサインディスプレイ用の出力、購入しない企業の8割は、従来通りのいわゆる校正紙出力であるが、残りの2割がモニターへの移行という。デジタルフルフルがまだ主体だが、今後は、カラーマネジメン

インフォペン

ペンの中から広告が引き出せる！しかも両面印刷だから、広い広告スペース！

ご注文は当社まで！

二葉印刷株式会社

KOMORI 最速800回転輸送機2台24時間フル稼働中！

本社 千820-0044 福岡県飯塚市横田669-69

東京営業所 千100-0003 千代田区一ツ橋1-1-1-B4 tel.03-6267-7028

「海外のトレンドに見る校正方法の変化」

郡正也氏が登壇。今回は校正という部分にフォーカスし、ヨーロッパ・アメリカも含めた海外のトレンドCTPもそうでしたが、欧米で流行しているのは、必ず数年後、日本にも流れてくる。皆さまにも直接関係のある内容ですのでぜひ参考にしていただければ...とのコメントで始まった。

まず、北米でのハードフルシステム設置台数では現状アナログとDCCPは合わせて10%、インクジェットが校正の主流となっており、最近では日本での伸びも高い。

約400の印刷デザイン会社に取ったアンケートによると、ハードフルシステム購入を考慮する企業は相対的に少なく、購入予定の目的は大判インクジェットでの校正の他、ポスターやサインディスプレイ用の出力、購入しない企業の8割は、従来通りのいわゆる校正紙出力であるが、残りの2割がモニターへの移行という。デジタルフルフルがまだ主体だが、今後は、カラーマネジメン